

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターおかば学園		
○保護者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年2月19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	34名	(回答者数) 28名
○従業者評価実施期間	2026年1月13日		～ 2026年1月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月2日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団療育を中心に、子ども同士の関わりを通して社会性やコミュニケーション力を育む支援を行っています。 保育士を中心に、発達段階に応じた丁寧な関わりを積み重ねている点が強みです。	工作・運動・感覚あそびなどの基礎的な活動を大切にし、実体験を通じた学びを重視しています。	今後も活動内容の工夫や職員研修の充実を図り、支援の質の向上に努めていきます。
2	保護者との信頼関係を大切にし、日々の連絡帳や送迎時の丁寧な引継ぎを通して、お子さまの様子や小さな成長も共有できるような心がけています。	定期的な個別面談を実施し、ご家庭での様子や保護者の思いに耳を傾けながら、共にお子さまの育ちを支えていく姿勢を大切にしています。	保護者が安心して相談できる身近な存在であり続けられるよう、今後も家庭とのつながりを大切にし、支援の充実を図っていきます。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	並行して地域の幼稚園や保育園を利用している児童が多く、個々の児童については連携できているものの、園全体としての連携が十分に図れていない点が課題です。	児童一人ひとりの状況には対応できているものの、園全体での情報共有や取り組みの仕組みが十分に整っておらず、包括的な関わりが難しい状況にある。	今後は園全体との連携体制を整え、情報共有の仕組みや定期的な交流の機会を検討していき、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりにつなげていきます。
2	兄弟児への支援体制が十分ではない点が課題です。	個々の児童への支援を優先するあまり、兄弟児への配慮や情報提供が十分に行えていなかったことが要因と考えられる。	今後は兄弟児にも配慮した関わりや情報提供を検討し、家庭全体を支える支援の充実を目指していきます。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援センターおかば学園
------	-----------------

公表日 2026年3月31日

利用児童数

34

回収数

28

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26	2				活動内容に合わせて活動場所の検討を行い、環境設定を行っている。引き続き、子どもたちが安全に過ごすことができるよう努めます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	27	1				引き続き、適切な職員配置に努めます。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	27			1		引き続き、安心して使用できる環境・設備の設定に努めます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	27	1				引き続き、清潔で心地よく過ごすことができる環境設定に努めます。
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	26	1		1		今後は職員の専門性向上に向けた研修の充実やケース検討の強化、保護者との情報共有の機会の拡充を図り、安心してご利用いただける支援体制の充実に努めます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	28					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	27				1	この結果を受け止め、計画作成の意図やアセスメントの視点について、より丁寧で分かりやすい説明に努めます。
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	26				2	今後は、支援の位置づけについて、より丁寧で分かりやすい説明に努めます。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	27	1				
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5	6	4	10		並行して地域の幼稚園や保育園を利用している児童が多くおられる為、今後の検討課題とします。
保護者 への 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	28					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27			1		今後はより一層、計画内容を丁寧に説明するとともに、保護者の皆さまにご理解いただけているか確認しながら進めてまいります。
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	22			6		今後は、ペアレント・トレーニング等の実施や保護者向け研修・情報提供の機会を計画的に設けるとともに、案内方法の工夫を行い、参加しやすい体制づくりに努めてまいります。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	28					引き続き、連絡帳や送迎時等にて情報共有を行っていきます。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	27			1		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	2	4	6		現状として、親子保育の実施はあるものの、保護者同士の交流や兄弟児向けのイベントについては十分に機会を設けられていない状況です。今後は、保護者の交流機会やきょうだいへの支援の充実を検討してまいります。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	24			4		この結果を受け、相談や申入れの仕組みが保護者の皆さまに十分に伝わっていない場合もあると感じています。今後は、相談窓口や手続きについて丁寧にご案内し、安心してご利用いただけるよう工夫してまいります。

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	28					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	5		2		今後も、よりタイムリーで分かりやすい情報提供を心がけ、保護者の皆さまが活動や計画の内容を把握しやすい工夫を進めてまいります。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	27			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	1		7		今後も、万が一に備えた安全対策や訓練の実施を継続し、保護者の皆さまに安心してご利用いただける環境づくりに努めてまいります。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	25			3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25			3		現状、大きな事故や怪我は発生しておりませんが、万が一の際には速やかにご連絡し、状況を説明できる体制を整えています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	25			3		今後も保護者の皆さまに安心していただけるよう、連絡方法や対応体制について丁寧にご案内してまいります。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	28					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	27	1			毎回おかば学園に行くことを楽しみにしていて笑顔で安心して通うことができています。いつも優しく寄り添ってサポートして下さる職員のみなさんのおかげです。いつもありがとうございます。	このようなお言葉を励みに、今後も安心して楽しく通える環境づくりに努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	28					

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援センターおかば学園
------	-----------------

公表日 2026 年 3 月 31 日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用定員に応じた必要なスペースを確保している。活動内容によって環境を変えるようにしている。	引き続き、利用定員や特性に応じたスペースの確保をするとともに子どもたちが安全で楽しく過ごせるように環境設定に努める。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用定員に応じた職員配置を行っている。	引き続き、適切な職員配置に努める。また、活動内容や環境に合わせて配置を検討していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		子どもの発達や特性に応じて安全に過ごせるように配慮している。活動場所によって建物の古さもあり危険箇所がある。	引き続き安全に活動が行えるように環境設定に努める。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		クラスの人数、活動内容に応じた活動内容・場所の選定を行っている。	引き続き、清潔で心地よく過ごせるよう努める。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもの状況や特性に応じて、環境を分けるなどの工夫を行っている。	引き続き、状況に応じた環境設定を行っていく。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎日の引継ぎや月例会議などで、情報共有を行っている。口頭での共有が難しい場合は、書面などでも情報共有を行うようにしている。	引き続き、引継ぎや会議を通して一人ひとりが積極的に業務改善を行えるように取り組みます。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価後には、会議等で共有を行っている。	引き続き、事業所アンケートを実施し業務改善に繋げていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年に複数回面談の機会を設け、個々の意見を収集している。内容によっては、会議で検討し業務改善に繋げている。	引き続き、意見を言いやすい職場環境づくりに努める。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は取り入れていない。	今後の課題として検討する。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。			法人内で様々な内容の研修が実施され、参加している。	職員の支援力の向上を図るため、研修の機会を確保する。また、外部での研修にも参加できるように、情報収集を行い、共有する。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		適切な時期にアセスメントを行っている。また、日々の連絡帳や個別懇談の際に保護者の方のニーズや思いを踏まえた支援計画の作成を行っている。	今後も継続して保護者の方と連携をとり、子どもたちにより良い支援を提供できるよう努めていく。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者だけでなく、保育士、児童指導員、パート職員と情報共有を行い様々な視点をもとに計画作成を行っている。	引き続き、子ども一人ひとりに合わせた計画作成をしていく。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画内容を職員間で共有し、子どもの発達状況や、計画の内容も踏まえて活動の設定を行っている。	引き続き、計画書に沿った支援に努める。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の支援記録や引継ぎ簿の情報をもとに子どもの状況を確認している。	引き続き、左記の情報を含めた様々な情報を用いて子どもの状況を確認していく。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		児童発達支援ガイドラインに沿って、子ども一人ひとりの発達状況に応じた支援計画を作成している。	引き続き、児童発達支援ガイドラインに沿って支援計画を作成していく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		クラスごとに活動内容の立案を行っている。また、子どもの発達状況や特性に応じてグループ分けなどを行っている。	引き続き、職員間で連携を図りながら活動内容の立案を行う。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動内容に偏りが出ないように月ごとに活動内容を決めている。	引き続き、子どもの発達に沿った活動提供ができるよう努める。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせた支援計画を作成している。	引き続き、子どもの状況に応じて児童発達支援計画を作成する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に前日のこどもたちの様子についての引継ぎや当日の活動内容や職員配置の確認を行っている。	引き続き、継続して支援や活動内容の確認や情報共有を行い役割分担の徹底に努める。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		降園前に一日の様子に関する情報共有を行っている。また、降園後に一日の振り返りを行っている。また当日出勤していなかった職員と情報共有を図る為、引継ぎノートを活用し、毎朝の引継ぎ内容を共有している。	継続して職員間での情報共有に努める。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		活動内容や様子、そのほかの連絡事項などの記録内容記録入力を行っている。支援の再発定等の必要性を感じた際にはその都度検討し改善に努めている。	継続して正確な記録入力の徹底、支援の検証・改善に努める。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを作成し、モニタリング会議を実施し支援の見直しを行っている。	継続して定期的なモニタリングの実施、モニタリングの実施を行っていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議や関係機関との会議には積極的に参加している。	引き続き、相談支援事業所と連携を図り、サービス担当者会議が行われた際には積極的に参加していく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		必要に応じて、関係機関と連携して支援を行い体制は整えている。	引き続き、関係機関と連携を図るための体制を整えていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		登録児の大半が並行利用されている。移行に向けた支援を行う際は、保護者に同意を得たうえで、関係機関と支援内容の情報共有、相互理解を図っている。	引き続き、移行支援や、関係機関との情報共有、相互理解を図っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学時の以降の際には、学校との間で情報共有と相互理解を図っている。	引き続き、就学時の移行の際には学校の間で情報共有を行い相互理解を図っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		他の児童発達支援センターや、障害児支援事業所と子ども部会や連絡会、研修を通じて質の向上を図っている。	引き続き、連携を図り地域全体の支援の質向上に繋げることができるよう努める。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		施設内外研修に参加する機会を設けている。	引き続き、研修参加への機会を設け、職員の資質向上に努める。
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。	○		自立支援協議会の子ども部会に参加している。	引き続き、自立支援協議会の子ども部会に参加する。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		並行通園されている利用時も多い為、園として積極的に実施できていない。	必要に応じて交流する機会を検討する。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		定期的な個別懇談会以外でも、連絡帳を活用し保護者の方と発達状況や課題について情報共有を行っている。	引き続き、支援について保護者の方と連携し共通理解ができるよう努める。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		親子保育の保護者の方が参加される行事や個別懇談などの機会を通して相談や助言を行っている。	引き続き、保護者の方とともに検討する機会を設ける、または必要に応じて助言を行う。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約時に説明を行っている。	引き続き、利用契約時に丁寧に説明を行う。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		児童発達支援計画書を作成、更新する前には、移行を確認する機会を設けており、確認したうえで、計画書を作成している。	引き続き、子ども、保護者の意向を確認する機会を設ける。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		支援内容の趣旨について保護者の方が理解しやすいように丁寧な説明を心掛けている。	引き続き、児童発達支援計画に基づいた支援内容の丁寧な説明を行う。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的な個別懇談会以外でも、対面や電話にて情報共有を行っている。	継続して保護者の方の相談に対して適切な対応と助言を行う。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		親子保育等、保護者の方も子どもと一緒に楽しめる行事を実施している。	きょうだい同士で交流する機会については今後検討していく。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申し入れに受付に関する体制については、利用契約時に説明を行っている。 保護者の方々からの要望などがあった際に適切にお応えできるように努めていく。	引き続き、相談や申し入れがあった際には、迅速かつ適切に対応できるよう努める。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月クラスだよりを発行し、月案や子どもたちの様子について記載している。また、行事の様子などはHPにも掲載している。年間行事予定の配布や、行事ごとに案内を配布している。	引き続き、クラスだよりの発行やHPを活用し、活動概要や行事予定、連絡体制等、保護者と情報共有を行う。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		業務にかかる個人情報の取り扱いが徹底している。	引き続き、個人情報の取扱いは徹底する。
	43	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		連絡帳や送迎の際に保護者の方に日々の様子を伝えていく。また、普段と違った様子が見られた際には、電話連絡等を行い細かく情報共有を行っている。	引き続き、適切な方法での意思疎通や情報伝達の配慮に努める。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域住民の方に参加いただける行事は実施できていない。	地域住民の方に参加いただく行事等は今後の検討課題とする。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種のマニュアルを作成し職員間で共有している。家族等については、重要事項や利用の手引きに記載し周知を図っている。	マニュアルについては随時見直しを行い、発生を想定した訓練を実施していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画(BCP)を策定し、定期的に避難訓練を実施している。	引き続き、非常災害の発生に備え、定期的な訓練を実施する。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		契約時や利用開始前に保護者から聞き取りを行い、状況の確認と職員間での周知を行っている。	引き続き、子どもの状況を事前に確認し職員間で共有したうえで、支援を行う。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		指示書に基づき対応を行っている。また、給食以外で食物を摂取する可能性がある際（行事等）は保護者の方に確認をとり対応している。	引き続き、安心・安全な給食提供に努める。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練を実施している。	引き続き、安全管理が十分にされた中で支援を行う。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		連絡帳等を活用し、取組内容について周知している。	引き続き、取組内容について周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット事例が発生した際は報告書を作成し、再発防止に努めている。	引き続き、事例が発生した際には共有と再発防止の徹底に努める。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		全職員、権利擁護・虐待防止に関する研修に参加している。	引き続き、虐待防止・不適切支援の不発生を徹底する。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		やむを得ず身体拘束を行う場合については、組織的な決定としており、事前に保護者の方への説明・了承を得たうえで児童発達支援計画書に記載している。	引き続き、適切に対応する。	